



Q：盲腸（虫垂炎）に関して教えてください。

A：虫垂炎は、一般に「盲腸炎」とか単に「盲腸」などと呼ばれていますが、実際は盲腸ではなく、盲腸（右下腹部の大腸起始部の盲端になっている部分）から突き出た細長い器官である虫垂に、細菌が感染して化膿性の炎症が起る病気で、膿が溜まって破裂すると腹膜炎を起こして死に至ることもあります。虫垂はリンパ系組織で、腸内の免疫機能に関与すると考えられています。かつては虫垂炎と診断されれば、すべて手術をしていましたが、最近では薬物療法が進歩し、炎症が軽い

場合は絶食・輸液管理を行い、抗生物質による内科的治療だけで保存的に治療することが多くなりました。ただし薬物療法の場合は、10〜20%の確率で再発することがあります。また、炎症が高度になると虫垂切除術が勧められますが、方法としては従来の開腹手術と、最近では腹腔鏡による手術が行われます。腹腔



鏡による手術は、腹部に小さな穴をあけるだけです。ほとんど傷口が残らず、入院期間も短くて済みます。

（岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F）

☎055・288・1801